

“鶏用オイルワクチン誤注射事故”に際しての適切な対応のお願い

明治アニマルヘルス株式会社
KMバイオロジクス株式会社

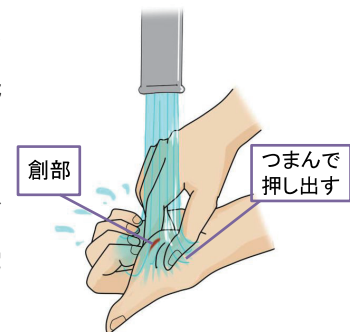
ワクチンを鶏に注射しようとして、又は準備や片付け作業中に「誤って人に注射する」という事故が発生しています。

人に誤注射してしまった場合には、“誤注入液と、事故時に刺し口などに付着した微生物”を5～10分ほど流水で洗い流した後、医師の診察を受けてください（下記参照）。その際、動物用油性アジュバント加ワクチンを誤注射してしまったことを医師に告げるとともに、本対応依頼書を医師に示してください。

【誤注射事故当事者へのお願い】

■直ちに作業を中断し、刺し口の周囲を押しながら、水道の蛇口を中程度に開き、血を押し出せなくなるまで（目安は5～10分）、刺し口から血液を押し出す要領で、誤注入液と事故時に汚染・注入された化膿菌を流水で洗い流してください。口か注射ポンプで強く吸い出す行為を、洗い流している間に加えると一層効果的です。

■速やかな処置を行っても、炎症を起こし発赤・腫れ・痛みなどがとれない場合は、出来るだけ早く外科医か皮膚科医の診察を受けてください。



【診察された医師へのお願い】

■鶏用オイルワクチンに含まれるウイルス・細菌は不活化しているものの、ワクチンそのものによる無菌性炎症が起こると考えられます。その強さは、誤注入液量によって異なりますが、急性炎症反応（発赤・腫脹・局所熱間・疼痛・指などでは血行障害）が見られた場合は、適切な対症療法をお願いいたします。

■事故時に汚染・注入された化膿菌による感染性炎症に対しては、表在性皮膚感染症に適応を有する抗菌剤の投与を、当薬剤に対するアレルギー歴の聴取後に行ってください。

■誤注入液量が多く、洗い流し後も残留が多いと判断された場合は、外科的デブリードマンの施行をご検討ください。

【監修】

医療法人 創起会
くまもと森都総合病院 特別顧問（皮膚科）
城野 昌義

国立大学法人
熊本大学 名誉教授（皮膚科医）
小野 友道